

(様式第1号)

令和5年度第2回 芦屋市文化財保護審議会 会議録

日 時	令和6年3月25日(月) 14:00~16:00
場 所	芦屋市役所北館4階 教育委員会室
出 席 者	副 会 長 中江 研 委 員 西尾 嘉美 原口 志津子 森下 章司 (欠席委員) 会 長 戸田 清子 【事務局】 社会教育室長 田嶋 修 生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋
事 務 局	生涯学習課
会議の公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍 聴 者 数	0 人

1 会議次第

- (1) あいさつ
- (2) 会長及び副会長の選出
- (3) 審議事項：ヨドコウ迎賓館（重要文化財旧山邑家住宅）の敷地環境調査について
- (4) 報告事項：山芦屋古墳出土須恵器の自然科学分析について
- (5) その他

2 提出資料

- 資料1 (抜粋) 旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）附属建物と敷地環境に関する調査報告書
- 資料2 旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）附属建物と敷地環境に関する調査に係る写真
- 資料3 山芦屋古墳出土遺物化学分析等業務委託

3 会長及び副会長の選出

委員の互選により、戸田委員が会長に、中江委員が副会長に選出された。

4 審議経過

<中江副会長>

それでは、本日の次第に従いまして、ただ今から議事に入ります。

審議事項「ヨドコウ迎賓館（重要文化財旧山邑家住宅）の敷地環境調査ヨドコウ迎賓館（重

要文化財旧山邑家住宅)の保存と活用」について、事務局より説明をお願いします。

<事務局：竹村>

資料1・資料2を用いて説明。

<中江副会長>

ただ今の事務局の説明について、何かご質問、ご意見はございませんか？

<中江副会長>

ご意見がないようですので、建造物専門委員の私から幾つかお伺いします。先程、今回の遺構の評価として、フランク・ロイド・ライトの設計と考えていいのではないか、という説明でしたが、この点は評価に大きく関わると思います。ライトが設計したと推定することはもちろん可能だと思いますが、本当に断定してしまって良いのかという点は少し懸念するところでは。

実際に調査を担当されている神戸大学名誉教授の足立裕司先生が評価されるのだろうと思いますが、確定的なものと推定に留まるものとをちゃんと分けておかないと、後で混乱を招くと思いますし、将来、新たな資料が出てくる可能性もあり得ますので、そういった点も踏まえて評価をしていただきたく思います。

<事務局：竹村>

足立先生のお考えは、調査結果に基づいて、ライトが設計に関与していると聞いています。

<中江副会長>

付属建物である倉庫は、かなりコンクリートが劣化している状況ですが、その保存活用の計画等は、今後、どのような形でされる予定でしょうか。

<事務局：竹村>

現時点ではほとんど未定ですが、所有者の淀川製鋼所としては、特にこの倉庫について一刻も早く何らかの対策をしたいと考えており、今後、行政と所有者が協議しながら取り組んでいく必要があると考えています。

<中江副会長>

わかりました。

<中江副会長>

次に、審議事項「山芦屋古墳出土須恵器の自然科学分析」について、事務局より説明をお願いします。

<事務局：竹村>

資料3を用いて説明。桃の種実と考えられてきたものは、分析結果では、種実ではなく土塊だった。壺内の白色の付着物は水酸化アルミニウムで、ミョウバンの可能性も提示されている。

<中江副会長>

ただ今の事務局の説明について、何かご質問、ご意見はございませんか？

<西尾委員>

土塊は、どのような状態で出土しましたか。

<事務局：竹村>

壺の中から出土しました。

<西尾委員>

壺の中から出土したのですね。壺が割れた状態で、中の土を取り出す時に含まれていたということですね。

<事務局：竹村>

はい、そのとおりです。

<森下委員>

この壺は、たいへん口が細いものです。古墳時代の桃はたぶん小さな山桃だと思いますが、それでも桃はこの土器の口には入らないので、今回の桃の種実ではなく土塊だという鑑定結果には納得がいききました。

<西尾委員>

小さい山桃でも土器の口で詰まりますね。土器の中に他のものがなくて、この土塊2点だけが入っていたということは、理解が難しいです。例えば呪力などを考えるのであれば、単独ではなく、竹串など他のものも付随していたのであれば、祭祀に関係するものとも考えられますが、単独だと何とも言えません。

<中江副会長>

壺の形が特殊ですし、かつ中に入っていたのが推定とはいえミョウバンであるのは、非常に珍しい、あまり報告例がないものが入っていたということになります。これについて、どのように評価できるのでしょうか。

<事務局：竹村>

評価するには、今後、いろいろと他の事例を調べていく必要がありますが、現時点では、分析の結果が水酸化アルミニウムであった、ということまでしか言えない状況です。

<原口委員>

周辺の古墳で、このような形の須恵器の類例はありますか。

<森下委員>

このような形態の壺は、須恵器ではあまり類例がありません。「百済系」と呼ばれる陶質土器に似ています。別の地域では出土品がいくつか確認されています。

<原口委員>

古墳に伴うものですか。

<森下委員>

はい。百済系の陶質土器は古墳の出土品としては多くありません。

<原口委員>

すごくきれいですね。この線の文様も美しいです。

<事務局：竹村>

そうですね。良い土器というか、グレードが高いと思います。

<原口委員>

上から見ると真円で、きれいな形態です。上等なものだと思います。

<森下委員>

そうですね。内面も大変丁寧な調整で、何か特別な器という感じがします。朝鮮半島で製作されたものが持ち込まれているのか、それともそれを真似して日本で製作されたものなのかが問題ですが、それを判断するのはなかなか難しいです。

<西尾委員>

内面の調整もきれいに消しているし、外面のタタキ目も消しているのですね。

<事務局：竹村>

出土した土器の内容物が残っているのも珍しいです。多くの土器には、本来、何らかのものが入っていたはずですが、内容物は溶けて無くなっているのがほとんどです。もし残っていたとしても、科学分析が実施されることがほとんどありません。

この土器の模様も珍しいです。製作時期は、6世紀の半ば頃です。

<森下委員>

これまでに、朝鮮半島の土器を専門とする研究者は、実物を見えていますか。

<事務局：竹村>

実物を見ている研究者はいると思いますが、把握できていません。

<森下委員>

どなたか、朝鮮半島の土器を専門とする研究者から意見をいただく必要があると思います。

<事務局：竹村>

はい。わかりました。

<森下委員>

この土器が朝鮮半島製だとなれば、評価が大きく変わります。

<事務局：竹村>

山芦屋古墳の横穴式石室の形態も異質です。玄室の幅がすごく広くて、奥壁の幅はありますが、玄室は正方形に近い形態です。

<中江副会長>

ミョウバンは、何に使うのでしょうか。

<西尾委員>

染料などですね。

<原口委員>

日本画では、ミョウバンを絹や紙などの膜のような下地として使っています。

<西尾委員>

原口委員が言われている時代の染料は、輸入品ですか？国産ですか？

<原口委員>

中世です。古代はわかりませんが、中世では国産であることを疑ったことがあります。

<森下委員>

たくさんミョウバンが入っていたにしては、器内面の一部分だけに付着しているという状

況は気になりますね。

<事務局：竹村>

そうですね。恐らくこの状況をみたらあそこだけですもんね。

<森下委員>

上澄みの部分だけが残っているというか。

<事務局：竹村>

そもそもミョウバンは水酸化アルミニウムの推定で、実際にミョウバンかどうかも確定したことはありません。

<中江副会長>

ミョウバンの可能性があるということですね。

<事務局：竹村>

そうです。

<原口委員>

土塊の形態には、何か意味があるのでしょうか。

<事務局：竹村>

この土塊の形態から、これまで桃の種実と考えられてきましたが、今回の分析の結果、種実ではなく、土塊であることが判明しました。しかし、ただの土塊ではなく、その独特の形態や空洞になっていることに、何か意味があるように思います。現時点で、この土塊が人工物なのか自然物なのか判断できませんが、2点ともに空洞ですので、何か人為的に成形されていると推測できます。

<原口委員>

土塊の黒くなっている箇所には、何か理由がありますか。

<事務局：竹村>

確かに黒くなっている箇所がありますが、理由はわかりません。

<中江副会長>

他に、ご質問等ございますでしょうか。

<事務局：竹村>

先ほどの森下委員からの土器の朝鮮半島産、あるいはその模倣品の判断が必要とのご意見がありましたので、今後、森下委員とともに、これに精通する研究者に意見を聞くなど、引き続き調査を進めていきたいと思えます。また、ある程度、調査が進み、評価できる調査結果がまとまり次第、市指定文化財の指定に向けて、芦屋市長から本審議会に諮問し、審議いただきたく考えています。

<中江副会長>

本日の自然化学分析の結果の報告を受けて、改めて貴重なものとわかりましたので、引き続き調査を進めてください。

次に「5 その他」について、何かございますか？

<事務局：竹村>

今年度は、ヨドコウ迎賓館竣工100周年記念事業を実施します。内容は講演会や子ども向けワークショップ、近代建築の見学会などです。

また、ただ今、建造物では芦屋市指定文化財及び国登録有形文化財の登録候補について、日本庭園では国登録記念物の登録に向けて、いくつかの調査を進めています。

<中江副会長>

ただ今の事務局の説明について、何かご質問、ご意見はございますか？

<中江副会長>

ご意見などないようですので、私の方から、後者について一点、申し上げます。これらの中には戦後のものが含まれていますが、今後、戦後に建てられた建造物の指定や登録について、どこかのタイミングで文化財候補となる戦後の建造物の悉皆調査をしないと、その位置づけがなかなか難しくなってくると思えますので検討する必要があると思えます。

<事務局：竹村>

今までは昭和20年で線引きをしている傾向がありますので、戦後の建造物を文化財の対象とするとしても悉皆調査はできていません。芦屋市域においては、戦後の建造物の中に優れたものが多く残されていると推測します。

<中江副会長>

そうですね。今は、位置づけなしで優れた建造物を登録している状況ですが、その全体の中での位置づけができていないと思えました。

<中江副会長>

他に何かご意見等ございませんか。

<事務局：竹村>

これまで市指定文化財指定の諮問に向けて審議いただいています、山芦屋古墳出土遺物と打出焼については、引き続き、事務局で調査等を行っていきます。

<事務局：田嶋>

令和6年4月から、市教育委員会から市長局部（企画部国際文化推進室国際文化推進課文化推進係）への移管について説明。

<中江副会長>

ただ今の事務局からの説明について、何かご質問等、ございますか？

ないようですので、予定されていた議事は終了いたしました。委員の皆様にはご協力をいただきありがとうございました。

— 閉会 —